

# 週末子どもクラブ をつくろう!!



社団法人 日本キャンプ協会

## 「デイキャンプ」から「週末子どもクラブ」へ

“Camping for All”を目指す日本キャンプ協会は、これまでキャンプをあまり経験したことのない子どもたち、大人たちに、もっとキャンプに気軽に参加し、その楽しさや教育的意義を知ってもらおうと願い、3年前に「デイキャンプのすすめ」という小冊子を発行しました。そして、そんなキャンプが週末を使って継続的に行われる場づくりを、「週末子どもクラブ」として提案しました。

その呼びかけに呼応して、全国で多くの方がデイキャンプ、週末子どもクラブの活動を開始されました。この冊子では、全国の8つの取り組みをご紹介します。それぞれ、その団体や地域の特徴をうまく生かした活動が行われています。

さて、ここで「キャンプ<sup>じい</sup>爺」を呼びましょう。

キャンプ爺は自然と子どもたちをこよなく愛する<sup>こうこうや</sup>好々爺です。聞くところによると、かつては全国各地に数多くの少年キャンプを根付かせ、優秀なリーダー達を育ててきたという、まさしく「知る人ぞ知るキャンプの達人」らしいのですが、今は<sup>ゆうゆうじてき</sup>悠々自適の山暮らしを楽しんでいるそうです。今回は、「オレたちは爺とマブダチさっ！」という5人の子どもたちを通じてお願いし、ご登場いただきました。

では、爺にあれこれお知恵を拝借しながら、話を進めてみましょう。

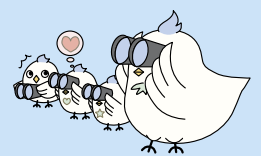
より多くの子どもたちが、キャンプを楽しむ機会を得るように。

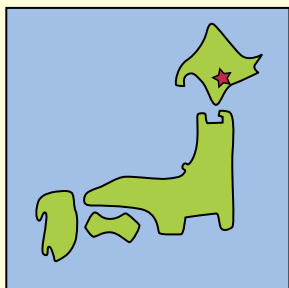
より多くの大人たちが、キャンプの教育的効果を認識するように。

みんなが、豊かな心を育むキャンプを身近な場所で楽しめるように。

さあ、「週末子どもクラブ」をはじめませんか？

# 週末子どもクラブ 事例集





## 気軽に参加できる時間設定

豊似川クラブ（北海道広尾町）

豊似川クラブは「クラブ」と名乗ってはいますが、会員制というわけではなく、年齢制限もない、月1回のペースで行われる活動です。「大人も子どもも自然の中で楽しくいっしょに遊ぼうぜ！」という趣旨のもと、毎回20～30人が集まって、地元の海や川や山で思い切り遊びます。

### お昼ごはんを食べて集合

集合時間はお昼の12時50分、参加者はそれぞれお昼ごはんを済ませてから集まります。5時に解散するとしたら、実際に活動するのは4時間弱ということになります。とても短いように感じられますが、川にサケの赤ちゃんを見に行ったり、河原でハロウィンパーティをしたり、オオワシの観察をしたりと、とても魅力的なプログラムばかりです。

もちろん、このようなプログラムは豊かな自然がごく身近にある環境だからこそ実現できるものです。クラブの名前にもなっている豊似川には、サケやマスがさかのぼってきます。そして、豊似川の流れ込む海にはアザラシがやってきます。しかしそれ以上に、「今日のプログラムはこれ！」と焦点を絞ってとことん楽しむことが、短時間でも充実したプログラムを実現可能にします。

日帰りのプログラムであれば、募集締切は開催日の2日前。参加費も200～300円と非常に安く設定されています。これは保険料とおやつ代で消えてしまうので、運営経費的には厳しいところもありますが、時間の短さと合わせて、いろんな世代の人が気軽に参加できる要因になっています。



サケの赤ちゃん、いるかな？

### 子どもが活躍できる場所を

毎回、プログラムを始める前には、活動場所にどんな危険があるのかを子ども


もたち自身が考える時間が設けられています。もちろんこれは事故を起こさないための安全対策のひとつなのですが、同時に、子どもたちの考えるトレーニングという側面もあります。安全面以外でも、子どもたち自身が話し合いをし、自分たちの行動を決めることを重視しています。

年間12回のプログラムのうち、夏場の3か月は1泊2日のキャンプを行います。2007年は、6月のキャンプを小学校5年生以上を対象とした「ジュニアリーダー養成キャンプ！」として実施しました。

これらの背景にあるのは、「子どもたちが活躍できる場所をつくりたい」という、代表の松田さんの思いです。実際、高校生になったOBがスタッフとして指導にかかわってくれることもあります。活動を通じて考える機会を与え、リーダー養成をすることで、活動の原動力は大人から、大きな子ども、そして小さな子どもへと受け継がれていくのです。



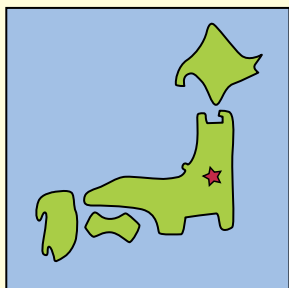
おっきな子もちっちゃな子もいっしょに遊ぼう

 浦田憲二

#### 2007年度のプログラム

- 4月 春を探しに出かけよう！
- 5月 鮭の赤ちゃんを見に行こう！
- 6月 ジュニアリーダー養成キャンプ！
- 7月 豊似川クラブキャンプ！第1弾
- 8月 豊似川クラブキャンプ！第2弾
- 9月 鮭の遡上を観察しに行こう！
- 10月 豊クラ ハロウィンパーティー
- 11月 ハイキング&リース作り！
- 12月 バードウォッチング in 豊似浜！
- 1月 雪遊び（雪合戦）その1
- 2月 雪遊び（雪合戦）その2
- 3月 スノートレッキング！





## 総合型地域スポーツクラブの活動として いな夢クラブ・あにまるズ（福島県南会津町）

「いな夢クラブ」は、南会津町伊南地域の総合型地域スポーツクラブです。ランニングやニュースポーツ、健康教室、合唱団など、さまざまな活動の中で、地域の小・中学生を対象に自然体験プログラムを行なっているのが「あにまるズ」です。伊南の自然を体験してほしいと、一年を通じた活動を行っています。

### 伊南の自然を知ってほしい

伊南は山あいの豊かな自然を有している地域です。しかし、そこで暮らす子どもたちは、伊南の山や川、畑といった自然の中で遊ぶことが少なくなってきました。そんな子どもたちに、自然の中で遊んだ体験や、遊びを通して学んだ知恵を伝えたいということで「あにまるズ」の活動が始まりました。

5月は「春の山さ、いくべ」と題して溪流釣りに挑戦。6月はヤゴとホタルのすみかづくり。8月は2泊3日のキャンプ。9月は「刺し網で鮎とっぺ！」と題して、アユ漁というように、豊かな自然を活用した遊び、季節に合わせた遊びを展開しています。たとえば9月の活動では、刺し網漁だけでなく、小さな魚をヤスで突いたり、ライフジャケットを浮き輪代わりに泳いだり、浅瀬にダムをつくったりというように、川での遊びの多様性を再確認することができました。

参加者は小学校低学年の子どもたちが多いのですが、高校生や大学生、地域の大人たちも参加者として、時にはスタッフとして活動を盛り上げてくれます。活動はまだ始まったばかりですが、「あにまるズ」をきっかけに、子どもたちが自然の中で自発的に遊ぶ姿も徐々に見られるようになってきました。




ひんやりした朝の空気を思い切り深呼吸

## 地域の協力を得て

あにまるズのメインイベントとも言えるのが、3月に行われる「雪中ギャザリング」という3泊4日のキャンプです。これはもともと教育委員会主催で9年間行われてきた事業だったのですが、6年ぶりにあにまるズの活動として復活しました。「なにもない」と言っているほどの山小屋で、子どもたち自身がなにをするか考えて、工夫しながら生活をするこのキャンプは、子どもたちにとってかけがえのない経験となりました。

もちろん、ボランティアでこれらの活動を進めていくことは大変です。ただ、総合型地域スポーツクラブである「いな夢クラブ」の一事業であることから、活動に必要な装備や広報の面で教育委員会の協力を得たり、他団体の協力を得ることも比較的簡単であるという面もあります。こうした条件をうまく活用して、伊南の自然の価値を伝える活動をできるだけ多く提供していきたいと考えています。

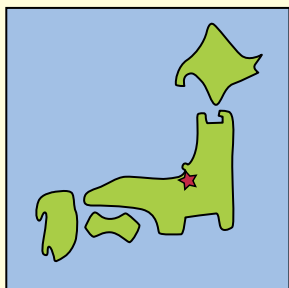
 浦田憲二



雪中ギャザリングでのひとこま 寒いけど、なんでも自分たちでしなきゃいけないけど、楽しいこといっぱい

### 2007年度のプログラム

- 5月 春の山さ、いくべ <溪流釣り>
- 8月 ちびっこサマーキャンプ <2泊3日>
- 9月 刺し網やっぺ <鮎の刺し網体験>
- 2月 親子でスノーシューハイキング
- 3月 いな雪中ギャザリング2008 <3泊4日>



## 週末に小さな冒険を

まっとう自然隊 PAL ☆ぱる  
ぱるぱるキッズ 2007（石川県白山市）

「まっとう自然隊 PAL ☆ぱる」は 2001 年 3 月設立、現在 30 名がスタッフとしてかかわる任意団体です。これまでもさまざまな自然体験活動を行ってきましたが、2007 年からは登録制の「ぱるぱるキッズ」としての活動も始めました。

### キーワードは「冒険・挑戦」

今、子どもたちの週末は過密スケジュールになっています。そんな状況の中で、子どもたちに自然体験活動に参加してもらうためには、ただ単に「楽しそう」というだけでなく、子どもたちに獲得してもらいたいものを明確にして事業を行う必要があると、「まっとう自然隊 PAL ☆ぱる」のメンバーは考えました。そこで、「冒険・挑戦」をキーワードに、子どもたちが「ぼくにもできるかな？」と思うような活動を企画したのです。

7つのプログラムには、すべて「挑戦」という言葉がタイトルに入っています。たとえば 9 月に行われた「野宿に挑戦」では、標高 650 メートルの山の上で、寝袋とブルーシートだけで一夜を過ごしました。広く視界が開け、周囲に人工物がほとんどない、夜の静けさを存分に感じられる環境の中で眠った子どもたちは、少し自信を付けたようでした。



寝袋とブルーシートで野宿に挑戦




## 外部講師を迎えることで刺激を受ける

「ぱるぱるキッズ」を登録制としたほかに、2007年度には2つの変化がありました。

ひとつは年齢別のプログラムを設定したことです。野草食、野宿、リースづくり、スノートレッキングは小学1年生から、カヌー、沢登り、パラグライダーは小学4年生からと、参加できる年齢をプログラムごとに設定しました。

もうひとつは外部講師を迎えたことです。「まっとう自然隊 PAL ☆ぱる」のメンバーはキャンプディレクター（日本キャンプ協会）やネイチャーゲームリーダー（日本ネイチャーゲーム協会）などの資格を持つ人が多く、これまでほとんど自前で指導を行ってきました。しかし、子どもたちに真の自然体験を提供するという目的を持って、地元白山市の自然環境を眺めてみると、新しい活動の可能性が見えてきました。そこで、外部講師を迎えてカヌーとパラグライダーを導入することになったのです。このことは子どもたちに新しい体験を提供するだけでなく、メンバーにとっても大きな刺激となりました。

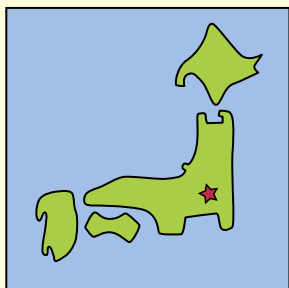
 平田裕一



年齢に応じて参加できるプログラムを変えた

### 2007年度のプログラム

- 5月 野草食に挑戦
- 6月 カヌーに挑戦
- 9月 野宿に挑戦
- 9月 沢登りに挑戦（荒天のため中止）
- 10月 リース作りに挑戦
- 11月 パラグライダーに挑戦
- 2月 スノートレッキングに挑戦



## 身近な公園からはじめよう

チャウス自然体験学校・週末友遊クラブ（群馬県桐生市）

チャウス自然体験学校は、群馬県桐生市に事務局をおく施設を持たない民間の自然学校です。これまでは国立や県立の自然の家、民間のキャンプ場でプログラムを展開してきました。「週末友遊クラブ」は、地域の子どもたちを対象に日帰りのプログラムを中心にした通年の事業として、新たに企画されたものです。

### 臨機応変な変更

中心となる活動場所は、市内の公園です。子どもの日帰りプログラムということで、身近な場所での活動がメインとなっています。しかし、身近な公園といっても、そこには森があり、水が流れていて、さまざまな自然があります。そんなフィールドを活かしたプログラム展開がなされています。

ただ、初めての取り組みで、参加者集めには少々苦労しています。5月の第1回目は、1年間の始まりということで仲間づくりの活動を予定していたのですが、やってきた子どもたちは3人。水遊びとネイチャークラフトにプログラムを変更しました。水に入って昆虫を探したり、公園の遊具で遊んだり、子どもたちは変更をものともせず、楽しそうに遊びました。その日は母の日だったので、ネイチャークラフトは木の枝を使って、お母さんの顔を作りました。できあがった作品は、驚くほど特徴をとらえていて、お母さんにとっては思いがけない母の日のプレゼントになりました。

また、6月の第2回目は、川のほとりの公園を使っての活動を予定していたのですが、前日までの雨のために増水の危険があるということで、より安全な場所に移動してプログラムを行いました。




予定を変更して水遊びをしました

参加者が思うように集まらなかったり、天候のために予定していたプログラムができないときは、中止にするかどうかで迷います。しかし、一度中止にしてしまうと、次回の参加が少なくなっていくことも考えられます。このときは、多少内容を変更しても、安全の確保ができるのであれば、プログラムを実施することが参加者の満足感を高めることにつながると判断されました。

## 変化しながら活動は続く

「週末友遊クラブ」の募集対象は小学校1年生から6年生となっていますが、実際の参加者を見ると、1年生から4年生ぐらいまでが中心で、特に低学年の参加者が多くいます。そのせいもあってか、家族で参加できるプログラムの要望も多く聞かれます。「どうせ送り迎えに来るのだから、私たちもいっしょに楽しみたい」というのが保護者たちの気持ちなのでしょう。子どもと親がいっしょに、あるいは、同じ時間を別々に楽しめる身近なプログラムを取り入れることも検討しています。

地域との連携なども含めて、まだまだ課題も多く残っていますが、「学校などとは違った異年齢集団での体験活動を通して、協調性や思いやりの心を育む」というこの事業の目的に向けて、活動は続きます。

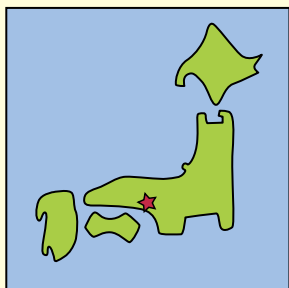
 浦田憲二



川で泳ぐのって、気持ちいい！

### 2007年度のプログラム

- 5月 みんな友だちになろう！→プログラム変更
- 6月 森の探検に出かけよう→会場変更
- 6月 川で遊ぼう！（1泊2日）
- 9月 野外料理を作ってみよう！→参加者が集まらず延期
- 10月 自然の中から秋を探そう！
- 11月 ネイチャークラフトを作ってみよう！



## NPO 法人による組織的取り組み

緑の森自然キャンプ協会 (G.N.C.A.)

G.N.C.A. アウトドアクラブ (兵庫県神戸市)

「緑の森自然キャンプ協会」は、神戸を拠点に自然体験活動を通じて子どもたちの生きる力を育むことを目的に活動している NPO 法人です。「アウトドアクラブ」は、その活動プログラムのひとつで、「人とつながることの大切さ」に注目してデイキャンプを継続的に行っています。

### 年 10 回、いろんなプログラム

アウトドアクラブは、小学 1 年生から中学 3 年生を対象とした、年間 10 回のデイキャンプのプログラムです。内容は、山登りや川遊びといった阪神間の自然環境を使ったものだけでなく、大阪城公園のような都市公園を使ったプログラムがあったり、時には神戸の街中を歩くタウンウォークがあったりと、さまざまです。それぞれのプログラムには「やっぱグループでないと！略して『グルナイ！！』」「みんなで登ればお茶のこさいさい へのっぱ！」など、いかにも楽しげなタイトルが付けられています。

活動を行う小グループは異年齢の子どもたちがいっしょになるように組まれ、さらに毎回組み替えをして新たな出会いがあるように工夫されています。このことを通じて、上半期はグループ活動の楽しさや仲間の存在のすばらしさを感じることを、下半期は自分から仲間づくりができるようになることをめざしています。



川遊び、楽しい～！！

### 継続的な活動を支えるしくみ

年間 10 回のプログラムですが、それぞれのプログラムには 3 日程度の複数の日程が設定され、4 つから 5 つのユニットで活動を行っています。また、集



合場所も数カ所が設定され、かなり大規模な取り組みであることがわかります。実際、会員として登録している子どもの数は約 200 人、そのうち全日程の参加費込みの年会費を払っている子どもの数は約 110 人もいます。つまり、プログラムごとに 100 人を超える子どもたちの活動を行っているわけです。

その活動を支えるのが NPO のスタッフとボランティアリーダーたちです。各ユニットは NPO スタッフ 2 人とボランティアリーダー 6～8 人で運営にあたりますが、G.N.C.A. では多くのボランティアが登録し、そのうち約 40 人が積極的にプログラムの運営にかかわっています。ボランティアリーダーに対しては独自のリーダー研修を行うほか、兵庫県キャンプ協会の行う研修事業への派遣も行い、資質向上に努めています。

集客もホームページなどだけでなく、神戸市、尼崎市、西宮市、明石市、宝塚市の教育委員会の後援を得て、小学校でのチラシの配布も行っています。このような指導者や広報の充実をささえるしくみがあって、より多くの子どもたちが自然体験をできる環境づくりが進められています。



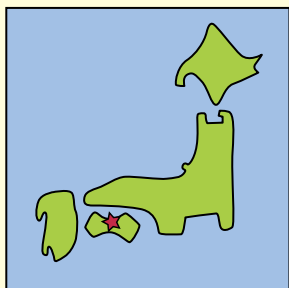
 桑田千照

自分たちで作ったごはんであったまろう

## 2007 年度のプログラム

- 4月 春のみどりんピック 2007 <運動ゲーム大会>
- 5月 It's a 笑 time !! <オリエンテーリング>
- 6月 やっぱグループでないと！略して『グルナイ！！』<野外炊事>
- 7月 幸せ倍増計画！ <川遊び>
- 9月 みどりのもりコレクション 2007 <クラフト>
- 10月 みんなで登ればお茶のこさいさい へのかっぱ！<登山>
- 11月 V I V A ロック！ <登山>
- 12月 HOTな料理にホッとしよう♪<野外炊事>
- 1月 A HAPPY NEW YEAR～初歩き 神戸 WALKER～<オリエンテーリング>
- 2月 『き』みと『ず』っと『な』かよし～きずな～<ゲーム大会>





## 県協会の新たな取り組み

愛媛県キャンプ協会

まつやま野あそびクラブ 2007（愛媛県松山市）

愛媛県キャンプ協会では、これまでに子どもたちを対象にしたキャンプ事業を行うことが少なく、その必要性を感じていました。そこで、松山市レクリエーション協会、松山市キャンプ協会、愛媛県レク指導研究会、愛媛大学児童文化研究会などと協力して、「まつやま野あそびクラブ」を立ち上げました。

### さまざまな試み

まつやま野あそびクラブが2007年度に行ったプログラムは、デイキャンプ2回に、1泊2日のキャンプが2回の計4回でした。できるだけ多くの子どもたちに参加機会を提供したいということで、その都度、以前行ったプログラムの参加者への案内や、新聞やタウン誌を通じて参加者募集をしました。ところが、いったんは定員に達して締め切るのですが、実施間際になって学校行事や体調不良などによるキャンセルが入ることが多く、参加者募集の難しさを感じました。

プログラムは「ダンボールの舟づくり」「ネイチャークラフト」「野外炊事」などさまざまなものを行いましたが、なかでも1泊2日で香川県まで出かけた「イルカとのふれあいキャンプ」は参加者に好評でした。

かかわったスタッフは全部で20名あまり。大人向けのプログラムよりも多くの人数が必要となるため、毎回フル回転という感じでした。まだまだ子ども向けのプログラム実施の経験が少ないということもあって、苦労する部分はいくつかありましたが、活動全体は大きなトラブルもなく終わることができました。



ダンボールの舟をみんなで運んで、これから進水式

## 魅力的なプログラムをつくりたい

参加しやすさを重視して、まつやま野あそびクラブ 2007 では、デイプログラムで1,000円、貸し切りバスを利用した1泊2日の「イルカとのふれあいキャンプ」でも12,000円という参加費設定がされていました。しかし、比較的多くのスタッフがかかわる必要もあるので、あまり低く抑えると経費が足りなくなってしまいます。今後は参加費が少し高くても参加してもらえる、より魅力あるプログラムの開発が必要だと感じています。

また、この事業を契機に、運営スタッフと継続して参加してくれる子どもたちの保護者との間に顔の見える関係が生まれ、相互理解が深まってきました。この関係を大切に、参加者のニーズも取り入れながら、クラブ化して継続性を持たせたいという気持ちがスタッフ間に生まれています。

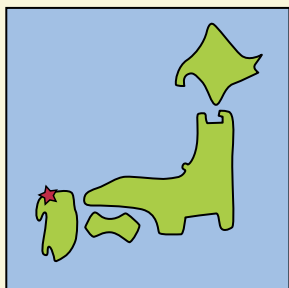
 桑田千照



好評だったイルカとのふれあいキャンプ

### 2007 年度プログラム

		参加者	スタッフ
8月	ダンボールで舟を作ろう (デイキャンプ)	36名	12名
9月	イルカとのふれあいキャンプ (1泊2日)	21名	17名
9月	ネイチャークラフトと野外炊事 (デイキャンプ)	30名	8名
10月	野外活動センターまつり (1泊2日)	27名	18名



## 保護者の理解が継続を後押し

むかご会・週末アウトドアキッズ（福岡県）

「むかご会」は「野外活動を通じて子どもたちの健全育成をめざそう」というねらいを持って結成された団体で、福岡市とその周辺に住む、ガールスカウトの指導者や大学教授、地域の青少年の健全育成活動指導者、行政職員などの野外活動実践経験者で構成されています。これまで行ってきたキャンプを発展させ、「週末アウトドアキッズ」を立ち上げました。

### 小さいうちからキャンプ体験を

むかご会が4年間実施してきたキャンプは「刃物キャンプ」というもので、近隣の小学4～6年生を対象にしていました。しかし、むかご会のメンバーは「もっと小さいときから、野外活動体験をさせたい」という願いを持ちました。それは「低学年対象のキャンプが少ないので、やってほしい」という保護者のニーズと合致しており、新たな年間活動が行われることになったのです。

活動場所は、保護者が実際に見ることができて、送り迎えしやすいように、日常生活圏からあまり遠くない福岡市郊外の小学校や大学の演習林などを利用しました。プログラムは、野外炊事、ネイチャーゲーム、森の散策、冬の登山などを行い、2006年度は27名の子どもたちが参加しました。



おそろいの帽子がメンバーのしるし

### 保護者との顔の見える関係づくり


安全にキャンプを行うために、毎回、保護者に「健康チェック表」の記入をしてもらい、子どもたちの様子を伝えあう連絡帳としました。さらに、写真入りの活動報告や次回の案内を掲載した通信を作成し、次の活動日に配布しました。毎回の通信の編集作業は本当に大変でしたが、「活動の様子がよくわかる」



「親子の会話のきっかけになった」と喜ばれ、保護者とのよい関係も築かれていきました。

また、1年間の活動が終わるころには、「来年の班長を決めておこう」と自主的に話し合いを始めるなど、子どもたちの成長が確かに感じられ、当然のように「翌年も週末アウトドアキッズの継続を」という声が、保護者からもスタッフからもあがりました。

しかし、問題は参加費の設定でした。初年度は参加費にむかご会からの出資金と日本キャンプ協会の支援金を加えて、年間の参加費を7,000円としましたが、2年目からは参加費だけで運営費をまかなわなくてはなりません。そこで、保護者にアンケートをとったところ、「値上げしても継続して参加する」という支持を得ました。その結果を受けて、財政プランを再構築し、年間参加費を2万円に設定して活動を継続しています。

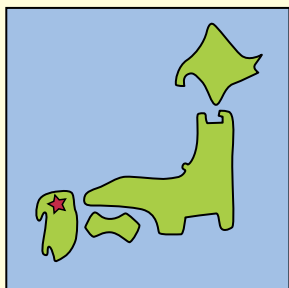
 柴田俊明



包丁を使ったり、岩山を登ったり、ちょっと冒険もします

## 2006年度のプログラム

- 6月 みんなで楽しく <野外炊事とゲーム>
  - 7月 森の自然と仲良しに <森のビンゴゲーム>
  - 9月 テントに泊まろう <1泊キャンプ>
  - 10月 実りの秋を味わおう <どんぐり餅づくり>
  - 12月 ネイチャークラフトを楽しむ <自然の素材で工作>
  - 1月 冬の自然に挑戦 <登山・保護者も参加>
- (11月と3月に活動紹介行事)



## 身近なフィールド・校庭を活かして

春日市週末子どもクラブ（福岡県春日市）

「春日市週末子どもクラブ」は、子どもたちの感性を育むことを目標に、土曜日、日曜日の校庭で四季を通じて植物観察やネイチャーゲーム等をおこなっています。身近な場所を見直す効果と共に、集客、経費軽減の工夫、継続への熱意がうかがえます。

### みんなが参加しやすい場所で

春日市は子ども会活動の歴史が長く、加盟率は70%に達しています。そこで、主宰者の江副<sup>えそえ</sup>さんはまず子ども会に「春日市週末子どもクラブ」への参加を呼びかけました。すると、5つの子ども会から年間活動としての参加申し込みがありました。

活動場所はできるだけ身近な場所で、多くの子どもたちが参加できるように、市内の全公立小学校に土曜日、日曜日の校庭開放を依頼。主催者が責任を負うという条件で、全校に使用の許可を得ました。日本キャンプ協会の支援金を指導者の交通費に充当し、保険は春日市ふれあい保険（市民活動保険）を利用することで、電話代、資料代、教材費などとして1回200円の参加費で運営を行うことができました。

### 四季を感じるために年間を通じた活動を

身近な自然を感じてほしいということで、指導を地元の野外活動のボランティア団体「ちくしネイチャーゲームの会」等に依頼しました。「人とかかわる」「自然とかかわる」「自分に気づく」の3つを毎回の目標に、季節毎に「葉（春）」「樹木（夏）」「木の実（秋）」「冬芽（冬）」を使ってコミュニケーションゲーム、植物観察、スケッチなどを行いました。

活動を始めたころは、子どもたちに「葉っぱの絵を描いてみよう」と呼びかけると、実物の葉っぱを観察することなく、ありきたりな葉の絵を描いていました。ところが、ゲームなどで楽しみながら植物観察をすると、スケッチの内容が変わってきました。子どもたちの様子の変化に、指導を担当したスタッフたちも、子どもたちとかかわることの楽しさを実感しました。



## 継続への努力

活動の内容は満足のものでしたが、計画した48回中、21回は参加者がなく中止することになってしまいました。これは活動日数が多かったために、学校や地域の行事と重なることが避けられなかったためです。そこで、参加者の多かった春と冬に活動を絞り込み、年間を通じていつからでも参加できるようにしました。また、平行して、年4回の「グリーンアドベンチャープロジェクト」という別プログラムも立ち上げました。

2年目は支援金がなくても、節約しながら活動を続けるつもりでいましたが、活動の有意性を認めた春日市が補助金を出してくれることになりました。地域のボランティア指導者や校庭といった身近な社会資源を生かし、「子どもたちの感性を育みたい」という共通の思いを持って、活動は続いています。

 柴田俊明



毎日通う学校でも、発見がいっぱいある

### 2006年度のプログラム

5月	8小学校	参加	72名
7月	8小学校	参加	174名
8月	2小学校	参加	17名
10月	3小学校	参加	29名
11月	3小学校	参加	26名
12月	1小学校	参加	7名
2月	4小学校	参加	52名
3月	2小学校	参加	12名

## 個性派の魅力

全国で実施されている「週末子どもクラブ」の中から、8つの事例を見てもらった。いずれも個性あふれる魅力的な取り組みだ。思い切って年間活動に取り組みられたみなさんの熱意と努力に深く敬意を表したい。

どの活動もさまざまに工夫されていた。たとえば、活動場所を子どもたちが毎日通う校庭に設定し、日々目にする樹木や花に興味をもたせようと考えられた事例。自然豊かな市内の公園を活動場所にした事例。お昼過ぎに集まって活動した事例。これらは身近な社会資源を大いに活用したものだ。

メンバーの募集についても、できるだけ多くの子どもたちに参加機会を与えたいと、その都度公募した事例もあれば、最初にメンバーを固定して継続活動とすることで効果を高めようと考えられた事例もあって、興味深かった。

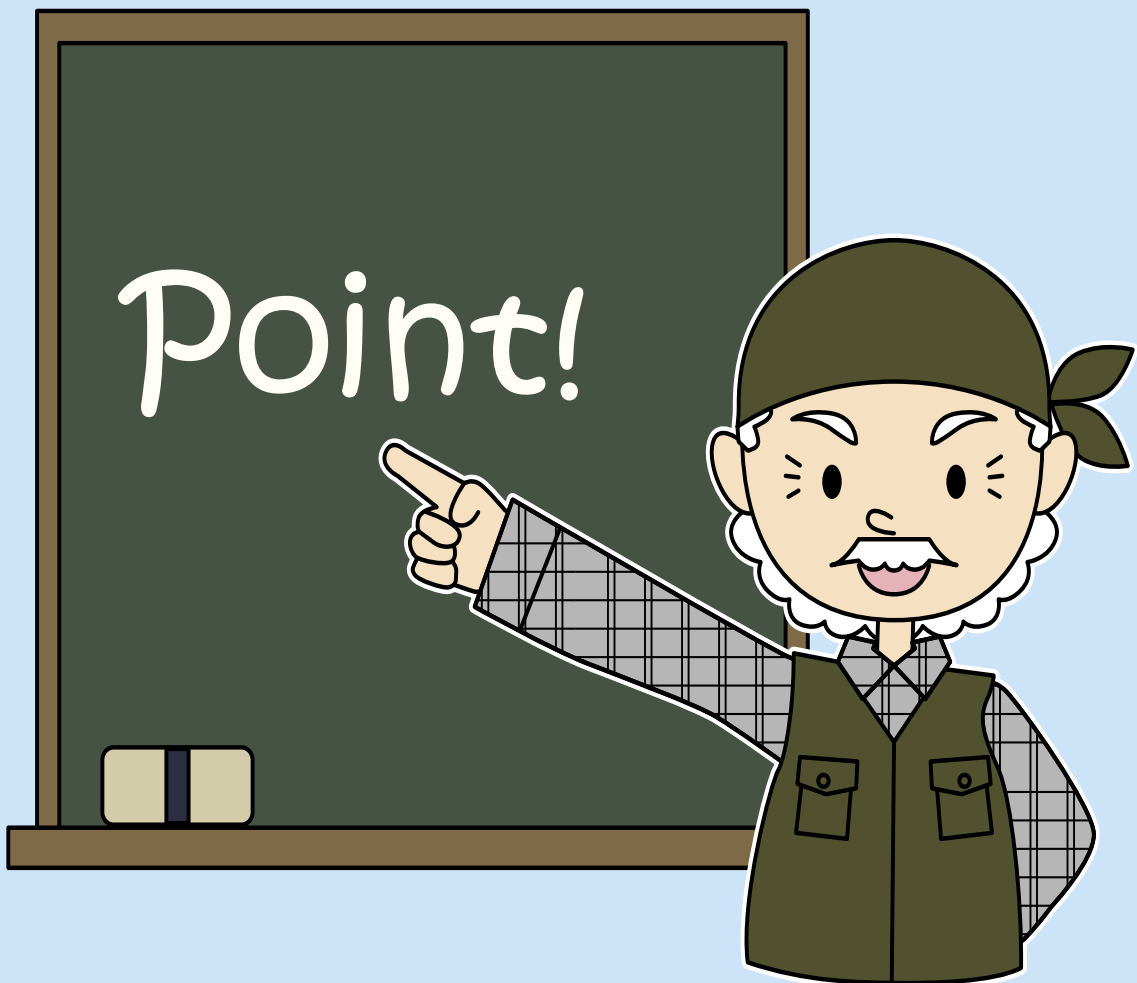
また、年間活動として継続したことで、子どもたちが大きく成長したという報告や、保護者とお互いに顔の見える関係ができたという報告も多かった。そうそう、時には「参加者なし」とか「3人」というときがあっても続けていたことで参加者に満足感を与えることができたという事例は、これからスタートを切ろうという方々には、大きな勇気を与えてくれるものだろう。

「週末子どもクラブ」は、それぞれの活動目標、組織、経験、地域のニーズ、社会環境等によって、さまざまな形式で実施されている。「キャンプはこうでなくては…」という“たが”をはめるとハードルはどんどん高くなってしまいうから、それぞれの目標を見据えて、それぞれの特性を活かしたスタイルで実施してみたらいいだろう。



キャンプ節の

# 「週末子どもクラブ」を 成功させるための 12のポイント



## その1 規約をつくろう

規約というとなんだか難しいことのように感じるかもしれないけれど、多くの人に活動を知ってもらい、参加してもらうための“名刺”のようなものと考えてみるといい。「代表者は私です」「こんな目的を持って活動します」といったことを明確に示しておこう。

### こんなことも…

ボランティア団体でも市町村に社会教育団体として登録する際には、規約の提出が求められる。登録すると、施設使用料の減免、広報の支援、機材の貸し出し、補助金、市民活動保険などのさまざまなサービスを受けることができるので、市区町村の社会教育を担当する部署（社会教育課・生涯学習課など）に相談してみよう。

このほかにも、助成金の応募などでも規約の提出を求められることが多く、規約の出番は意外と多い。

## その2 対象者はだれ？

活動を計画するときに、まず、どんな年齢層の、どの辺りに住んでいる子どもたちを対象とするのかを思い浮かべてみよう。年齢層や地域が幅広くなるとプログラムや集合場所の設定など、運営が難しくなる場合もあるので要注意。スタッフの人数や得意なプログラムから、まずは無理のない範囲で対象者を想定してみよう。

### こんなことも…

豊似川クラブ（P2）では、小さな子どもも大人も自由に参加できることになっている。これは保護者や年齢の大きな子どもに、スタッフとしての役割を少し分担してもらっているから。もちろん、お互いに顔の見える関係ができているからこそ可能なことだが、回を重ねるごとに柔軟な運営が可能になるものだ。

## その3 スケジュールを決めよう

参加者募集や準備の時間も見込んで、スケジュールは早めに決めよう。できれば年間計画を立てて、大まかでも予定を出しておけば、継続して参加してくれる子どもたちも増える。できるだけ定期的にやるようにして、「奇数月の第2土曜日」というように、実施日を定例化しておくのもいい。

### こんなことも…

子どもたちも小学校3～4年生になると、習い事に加えて、スポーツ少年団に入ったり、塾に行き始めたりと、週末も忙しくなる。だから「週末子どもクラブに行きたいのに行けない」ということが少なくなるように、学校や地域の行事やスポーツ少年団の試合などと重ならないように気をつけなくてはならない。地域の情報にアンテナをはりめぐらせて、参加しやすい日程を組み立てよう。

## その4 プログラムを考えよう

まずは、自分たちが得意とする活動を中心にプログラムを考えてみよう。あまりたくさんのことを詰め込まないように気をつけて、「なにをしたら楽しいかな？」という気持ちでプログラムを組み立てるといい。

また、丸1日のプログラムにこだわらず、お昼ごはんを食べてから集合すれば、お弁当の心配もいらず、もっと気楽に参加できるだろう。

### こんなことも…

活動が終わったら、参加してくれた子どもたちの意見を聞いてみよう。「楽しかったこと」「楽しくなかったこと」「やってみたいこと」そんな声をヒントに、自分たちの思いやアイデアを組み合わせ、もっと楽しいプログラムを考えよう。





## その5 活動はどこでやる？

時々には自然いっぱいの場所に遠出もしたいけれど、まずは公園・広場・お寺・公民館・学校などの身近な場所ではじめてみよう。使用許可を得ないと使えない場所もあるので、まずはその場所の所有者に確認を。

もちろん、集合・解散場所からの移動手段やトイレ、急な悪天候の場合の避難場所などを考えておくことも忘れないようにしましょう。

こんなことも…

春日市週末子どもクラブ（P16）では、活動場所は子どもたちの通う小学校の校庭だった。見なれた場所でも、そこにある植物のお話をしてくれる人がいるだけで自然観察のフィールドになる。

## その6 参加費の決め方

活動を行うためには、参加者にかかる経費（プログラム費・交通費・食費など）だけではなく、スタッフ分の経費や通信費、保険料などさまざまな費用が必要だ。もちろん、事前の準備にかかる費用（下見費用や会議費など）やスタッフトレーニングに必要な費用も忘れずに。

参加費収入で必要な経費をまかなうという考え方が基本。これらの経費すべてを計算したうえで、参加費を決めよう。

こんなことも…

助成金は、週末子どもクラブの運営の強い味方になる。しかし、あくまで一時的なものと考えよう。助成金を単純に参加費を安くするために使うのではなく、クラブの運営を安定させるために使う方法を考えよう。

むかご会（P14）では、保護者にアンケートをとった上で、参加費の値上げを実施した。活動通信などを通じて十分なコミュニケーションをとり、子どもたちの成長（キャンプの効果）を保護者に感じてもらったことで、活動が認められた結果だろう。

## その7 多くの人に知ってもらおう

参加者を集めるための広報手段には、チラシやホームページ、新聞・タウン紙（地域情報の載ったフリーペーパー）などさまざまなものがある。「誰が」「どんな目的で」「誰を対象に」「いつ」「どこで」「どんな活動を」といったことを明確にしてアピールしよう。

また、社会教育団体としての登録をしたり、教育委員会の後援を得ることで、市町村の広報紙や掲示板を利用したり、公共機関にチラシを置かせてもらったりすることもできる。

### こんなことも…

広報は必要なことだけれど、無闇にやっても効果がない場合もある。逆に申し込みが殺到して、対応しきれないということも起こりかねない。フリーペーパーの編集者など、プロのアドバイスを聞いてみるのもいい。もちろん、くちコミという強力な広報手段も忘れずに。

## その8 クラブ化してみる

活動がある程度定期的に行えるようになったら、クラブ化（会員制）も検討してみよう。会員制ならば参加者募集が楽になり、安定的な運営が可能となる。また、メンバーがある程度固定化することで、より質の高いプログラムを展開できる可能性も高まる。

### こんなことも…

あにまるズ(P4)は、いな夢クラブという総合型地域スポーツクラブの一部門として活動をしている。総合型地域スポーツクラブは、いわゆる競技スポーツや体カづくりプログラムだけでなく、文化活動も含まれるので、野外活動があってもいいわけだ。



## その9 安全なキャンプのために

まずは活動場所の下見をしっかりとすることを忘れずに。実際に行うプログラムを想定して安全対策をとろう。

スタッフが安全にプログラムを行えるように資質向上に努めることも大事だけれど、活動をはじめる前に「どこが危ないと思う？」と聞いてみるなど、子どもたち自身に安全について考える機会を持ってもらうことも大切だ。

### こんなことも…

事故を起こさないことがなにより大切だけれども、万が一の時のために保険をかけておくことも忘れずに。

日本キャンプ協会では、指導者会員を対象に「デイプログラム保険」を提供しており、1人あたり50円からの廉価な保険料で手厚い補償が受けられる。このほかにも1泊2日以上キャンプを対象にした「キャンプ保険」や他団体の提供する「市民活動保険」や「スポーツ安全保険」「ボランティア保険」などさまざまなものがある。加入条件や補償内容を十分に比較して、必要な保険を選ぼう。

## その10 協力者を見つけよう

「自分たちだけでは指導がちょっと難しいかな」というプログラムに挑戦するときは、外部講師の力を借りてみよう。ぐるりと見回せば、地域の中には「子どもたちのために一肌脱いでやろう!」という大人はたくさんいる。そんな地域のエキスパートたちを協力者として得ることができれば、活動はうんとパワーアップする。

### こんなことも…

日本キャンプ協会ホームページでは、さまざまな研修やイベントの情報を提供している。これらはキャンプの技術をブラッシュアップしたり、安全について学ぶこともできる。また、新しい協力者に会えるチャンスでもあるので、積極的に参加しよう。

## その11 活動の様子を伝えよう

「どんな活動をしたのか」「どんな様子だったのか」を保護者にお知らせすることは、子どもたちを安心して参加させてもらうために大切なことだ。次回プログラムの案内に簡単な報告を同封したり、ホームページで写真を紹介するなど、できるだけ負担の少ない方法を考えよう。また、懇親会を兼ねて報告会を実施するのもいい。

### こんなことも…

活動中の子どもたちの楽しそうな笑顔を撮った写真は、保護者にお見せするだけでなく、ホームページや団体案内のパンフレットなどで使用する場合がある。用途と使用目的を明確にして、事前に写真使用の許可を取っておこう。

## その12 ふりかえりをしよう

次回あるいは次年度の計画をつくる前には、しっかりとふりかえりをしよう。そのときの基準になるのは、ポイントその1であげた「規約」だ。ただ単に目標の参加者数を集められたかとか、楽しい活動ができたかというだけでなく、「規約の中の目的に見合った活動ができたかな？」とふりかえってみることも大切だ。

### こんなことも…

「うまくいかないな」と感じたときは、子どもの意見、保護者の意見も聞いてみよう。日程の組み方がよくないとか、安心できる対応ができていないなど、参加者や親の目を見た課題に気づけるかもしれない。

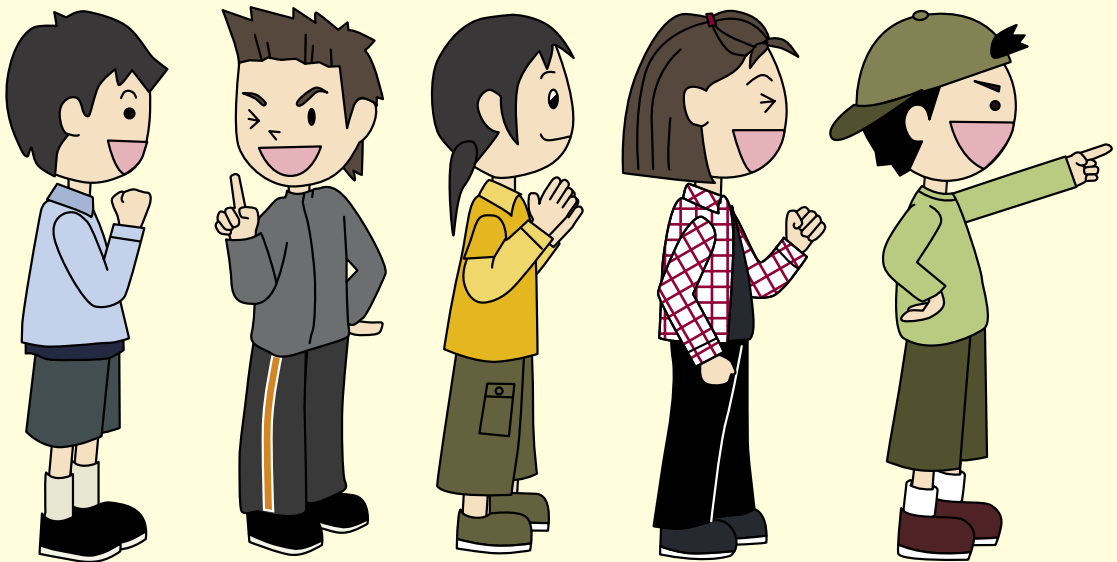


# 小さくても、

ある友人は「子どものころ、近所のおじさんが庭にテントを張ってくれて、友だちといっしょに泊まったのが最初のキャンプだった」と言う。テントの中で聞いた山好きのおじさんの話にワクワクし、その経験をきっかけに、やがて彼は野外教育を志し、多くのキャンプに参画した。

そんなふうに関心をもつ「はじめの一步」を、たくさんのお子さんたちに経験させてやりたいものだ。

雄大な自然の中に出かけ、長い期間を過ごすキャンプは教育的効果も大きい。でも、組織も経験も、物品も経費も必要だ。誰でもがおいそれとは実践できない。「週末子どもクラブをつくろう!!」という呼びかけには、身近な場所で行う「小さなキャンプをもっと見直してみよう」という願いが込められているのではないだろうか。





# 心ときめくキャンプを！

キャンプが身近なところでイキイキと行われていれば、それを見た人々のキャンプへの理解は深まるだろう。そんな機会が何度も続けば、「ちょっと参加してみよう」と思う人も出てくる。そして、小さなキャンプへの参加をきっかけに地域の間交流が深まれば、子どもたちを取り巻く社会環境はより豊かなものになる。

カナダに広大なキャンプ場を持ち、2週間以上の長期キャンプを数多く実践してきたジャック・ピアーズ氏は、かつて「たとえ1晩のキャンプでも、子どもたちの心に大いなる変化を与えることができる。人生観を変えることだってできる。みなさんがキャンプ・マジックを起こすのですよ」と語り、日本の指導者たちに勇気を与えてくれた。



私は、「週末子どもクラブをつくろう!!」という呼びかけは、「今こそ、キャンプの本質を見直そう」という、みなさんへの問いかけではないかと感じるのだ。

# キャンプが人を育てます

キャンプは遊び。

でも、人生に必要なことがたくさん学べる遊びです。

## 自然そのものがもたらしてくれる学び

自然の環境は、人間の五感に働きかける不思議な刺激で満ちています。これらの刺激は、私たちの感動や驚き、知的好奇心や探究心を呼び起こします。そして実物に触れる経験は、「知識」を生きることに関与する「知恵」として定着させることに役立ちます。

## 集団による活動・共同生活がもたらしてくれる学び

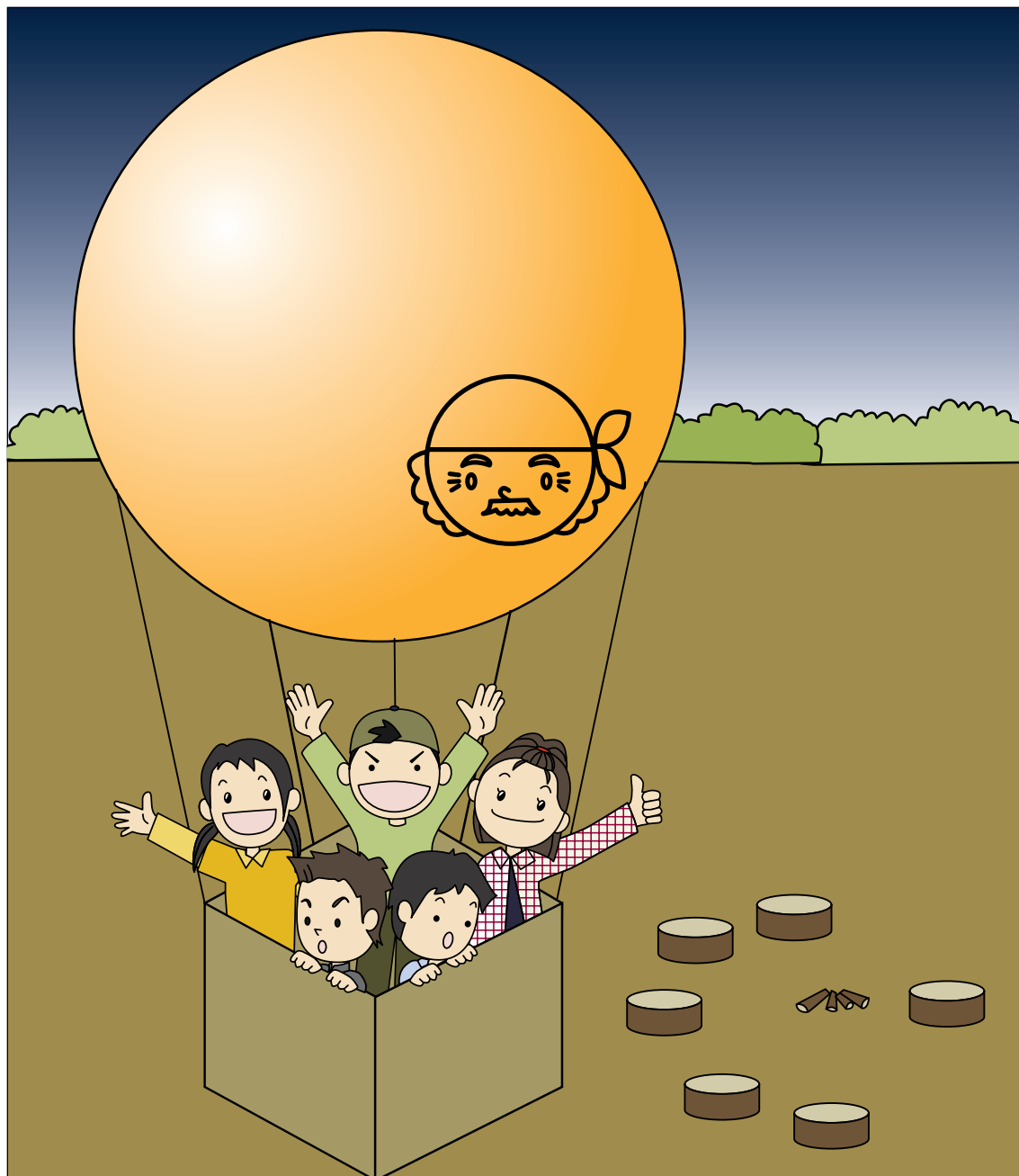
キャンプの小グループでの生活や活動においては、一人ひとりが自主的・主体的に行動し、協調性のある態度や行動をとることが求められます。キャンプは、他者との深い交流の中で信頼感を育て、よりよい人間関係のあり方を学ぶ機会を提供してくれます。

## 自然の中での生活や活動がもたらしてくれる学び

自然の中での素朴な生活や活動は、向上心や想像力、環境保全や自然愛護への積極的な態度を育てます。また、キャンプで得ることのできる知識や技術は、危険を回避し安全を確保する能力、自らの安全は自らが守るという意識を高めます。

## 新しい体験がもたらしてくれる学び

キャンプでのふだん味わうことのできない新鮮な体験は、これまで気が付かなかった自分の長所や能力を発見し、短所を知る機会となります。そして、新たな興味・関心を引き起こし、生涯を通じた健全で豊かなライフスタイルの形成にも役立ちます。



## 週末子どもクラブをつくろう！！

2008年3月31日

編集：社団法人日本キャンプ協会 普及サービス委員会

発行者：酒井哲雄

発行所：社団法人日本キャンプ協会

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

tel：03-3469-0217 / fax：03-3469-0504

E-mail：ncaj@camping.or.jp / URL：www.camping.or.jp



NCAJ

National Camping Association of Japan

